

二〇一七年 一月

## 「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

### 今月の言葉

願はくは深く無常を念じて、いたづらに後悔を貽(のこ)すことなかれ。  
『教行信証』

いよいよ二〇一七年がスタートしました。新しい年をみなさんはどのような心境で迎えたでしょうか。「一年の計は元旦にあり」という言葉があるように、勉強のこと、クラブ活動のこと等、昨年の反省を踏まえ、新たな目標に向けて気持ちを引き締めていることだと思います。

今月の言葉に述べられているように、仏教では「無常」を説きます。「無常」とは仏教の中心となる教えの一つで、すべては移り変わっていくことを意味します。私たちは後戻りができない、最初で最後の貴重な時間を日々過(と)してしまいます。もつと勉強しておけば…、もつと部活の練習を真面目にしておけば…等の後悔を残すことなく、今年も自分の目標に向けて精一杯精進していきましょう。

### 今月の聖語

後になって悔いもなく、よろこびがみちてくるような

そんな行為が、よい行為といわれよう

『法句経』

私たちの日常を振り返ると、つい楽な方へ流されたり、「これくらいでいいか…」と限界を決め、自分自身を誤魔化(ごまか)してしまつこともあるのではないのでしょうか。日々の学校生活や勉強、クラブ活動等に置き換えて考えてみてください。

「今月の聖語」で釈尊が述べるように、「後になって悔いもなく、よろこびがみちてくるような行為」は、強い意志が必要です。なぜなら、目標に対して、厳しく自分を振り返り、「コツコツと努力を重ねていくことを継続しなければならぬから」です。「三日坊主」では、何も残りませんよね。

おそらく、みなさんも今年の目標を立てたことだと思います。その目標に対して、今できることに全力を注ぐことの継続が、当然のことながら大切なことです。目標に向かう過程で本気で努力したことは、後になって充実感や喜びとして表れてくるはずですよ。新年ということ、気持ちも新たに、それぞれの目標にむけて精進していきましょう。

合掌

宗教教育係